

# 浦河べてるの家の当事者研究 ナラティブとコミュニティの観点から

○小平朋江(こだいら ともえ)<sup>(1)</sup>

いとうたけひこ(いとう たけひこ)<sup>(2)</sup>

向谷地生良(むかいやち いくよし)<sup>(3)</sup>

(1) 聖隷クリストファー大学看護学部看護学科

(2) 和光大学現代人間学部心理教育学科

(3) 北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科／  
社会福祉法人浦河べてるの家

一般演題⑥

心理教育 家族教室ネットワーク第14回研究集会

2011年(平成23年)2月24日(木)～25日(金):

2月25日(金) 11:00～11:15

発表10分 質疑応答5分

京王プラザホテル 第六会場(御岳)



2015/7/3

# はじめに

向谷地生良の

「今日もそれで順調！」



## 当事者研究

<http://ikuyoshi.jugem.jp/>

### 自分で自分を助ける方法の研究

●川村敏明(2002):

従来の医療の世界にはなかった非常に新しい文化を生み出している

●加藤敏(2005):

一般社会に開かれた狂気内包性の柔軟な共同体 精神障害者が仲間との連帯のもとに自己の組みかえに成功 この共同体は精神医療に多くの

2015/7/3 の貴重な示唆を投げかけている

はじめに

# 偏見差別大歓迎

すずきゆうこ(2006)

『べてるの家はいつもぱぴふ  
ぺぽvol.1』 McMedian⇒

- 当事者研究に見られるナラティブを通して形成される精神障害者のコミュニティの意義について考察を行うことが目的





浦河の地図



NHK総合2007年7月10日放  
映「生活ほっとモーニング」で浦  
河べてるの家が紹介される(番  
組の開始のシーン)

8:37

問題あっても大丈夫

～統合失調症と生きる～

# 当事者が闘病記に綴る病いの ナラティブ

## ●八木剛平(2009)

ブロイラー、フロイト、ヤスパースも体験記を活用  
統合失調症の人たちが執筆した手記に注目して分析

- 病から免れている精神の存在を確認し、ほかならぬ精神医学がこれまで不当に貶めてきた当事者の人格を復権しようとする試みである
- 当事者自身が執筆(文章化)した書物を通じて、この病の内的現実にあらためて接することは新しい経験となるに違いない

# ナラティブによりコミュニティでつながり合う 主人公としての当事者たち

## 「当事者が主人公」(向谷地、2009)

向谷地氏と森亮之氏との出会いの場面  
家庭内での爆発 壁には穴 家族への暴言  
人を拒絶して自宅に3年こもる

「(略)爆発に悩む人たちと当事者研究という活動をしています。今日、相談にきたのは、爆発系の統合失調症をかかえながら一生懸命に暮らしているあなたから、いろいろと経験を教えてもらいたいからです」

「相談にのる」ではなく「**相談にきた**」



# 幻覚 & 妄想大会

『言葉が現実をつくりだす』ナラティブ・アプローチ  
“語り”を変えることで新たな現実をつくりだす

(向谷地、2009)

## ●野口裕二(2002):

「語りの共同体」「物語の共同体」

「ナラティブ・コミュニティ」には、多くの「聴衆」がいて「聴衆」が存在することで新しい語りはより確かな位置を占めることができる 新しい語りが共有され定着する空間

「コミュニティ」と呼ぶ必要がある



# ナラティブとコミュニティ

## コミュニティとは？

### ●コミュニティ心理学の立場より 山本和郎(1986)：

人々がともに生きそれぞれの生き方を尊重し主体的に生活環境システムに働きかけていくこと

### ●看護学の立場より 安梅勅江(2005)：

目的、関心、価値、感情などを共有する社会的な空間に参加意識を持ち、主体的に相互作用を行っている場または集団

メンバー同士が活発に情報交換し交流

積極的には参加しないメンバーも聞いただけ見るだけでメンバーであることを意識

それらを含めて『相互作用』はコミュニティの重要な要素である

★主体的な相互作用 メンバーである所属感が重要

# ナラティブとコミュニティ

- 八木剛平(2009):手記の著者らが言語化したこの紛れもない内的現実の一端が当事者自身の手によって日本社会の水面上に姿を現し始めたということは、新しい時代の到来を告げる出来事のひとつ精神医学がこのことに無関心であってはなるまい
- 加藤敏(2005):自分が罹患した(している)病気について、その苦悩や病気に対する処方をつづることを通し、患者自身が病気について語ること自体、癒しの効果をもつ 他人にpathographyを読んでもらい、それについてコメントをもらうことも癒しの効果をもつ

# ナラティブとコミュニティ

●川村・佐野・中内・名月(2005)「統合失調症とわたしとクスリ」

統合失調症の当事者は力がないものと思われ、受け身で暮らしているように思われてきました。…

クスリをどうのみつづけければいいかという、当事者からの具体的な体験談は、いままでほとんど公表されることはありませんでした。…

クスリをのみはじめたひとはたいていみな、拒薬や無茶のみをする体験をとおってゆきます。そうやって自分自身をいためつけないと、自分のやりかたを確立できないというのは、あまりにいたましいことではないでしょうか。

みな似たような経験をするのであれば、その体験を共有化し、あらたに薬物療法をはじめるといまくるしみのまっただなかにいるひとに、少しでもラクに、てばやく、じょうずなクスリののみかたを身につけてもらうことは、とても大事なことではないでしょうか。

# ナラティブとコミュニティ

「闘病記ライブラリー」サイト⇒

<http://toubyoki.info/>



## ●体験談の出版

## ●統合失調症当事者でコミュニティ形成

- 読み手の当事者たちが目には見えない形でも著者と「連帯」
- 書き手にも読み手にも「癒し」の効果

# ナラティブとコミュニティ

## ●ヴィゴツキー(2001) :

ことばの最初の機能はコミュニケーション・社会的結合の機能であり、大人の側からにせよ子どもの側からにせよ、まわりのものに働きかける機能である

## ●小平・伊藤(2008) :

- ・闘病記 ことばで誰かと何かを共有
- ・ことばという道具を用いることで、こころの病いについて理解するきっかけを社会の人々に提供
- ・書き手(当事者)は闘病の体験者にしか出来ない社会的役割を果たす



# ナラティブとコミュニティ

「もやもやしたものの、べてるの誰かの  
真似で自分に近い気持ちを出すと  
整理もできる」

向谷地生良の

「今日もそれで順調！」



# ナラティブとコミュニティ

## ●野口(2002):

- ・『病い』を契機にしていることは考えてみれば皮肉
- ・共通の『病い体験』を通してはじめて、私たちは自分を受け入れてくれる他者と出会う
- ・ナラティブ・コミュニティはナラティブの多様な展開を助けナラティブが本来持つ不安定さを克服するうえで極めて有効な仕組み

## ●加藤敏(2005):

- ・一般の共同世界へと身を開く形でまず仲間たちとの共同性を育む 狂気内包性の共同性「べてる版SST」
- ・患者の居場所の創出と仲間との信頼関係の創出

# コミュニティ援助に向けて

## Kleinman (1988/1996)

- 慢性の患者は、自分の病いについての専門家
- 病いは経験である
- 痛みや、その他の特定の症状や、患うことの経験

● ナラティブの共有でコミュニティ形成

● 社会変革を起こす可能性も？

● 体験を出版・共有どんな動機が働いているのか？

明確になれば当事者が地域で生きる支援の方向性示唆？



# 引用文献

- 安梅勅江(2005)『コミュニティ・エンパワメントの技法:当事者主体の新しいシステムづくり』 医歯薬出版 pp.3-4.
- 加藤敏 2005『統合失調症の語りと傾聴:EBMからNBMへ』 金剛出版.
- 川村敏明 2002 「病気ってなんですか？」 浦河べてるの家著『べてるの家の「非」援助論:そのままでいいと思えるための25章』 医学書院 p.237
- Kleinman, A. 1988 *The illness narratives: Suffering, healing, and the human condition*. 江口重幸他訳(1996) 『病いの語り:慢性の病いをめぐる臨床人類学 誠信書房
- 小平朋江・伊藤武彦 2008 「精神障害の闘病記:多様な物語りの意義」 『マクロ・カウンセリング研究』, 7, 48-63.
- 向谷地生良 2009 『技法以前:べてるの家のつくりかた』 医学書院
- 野口裕二 2002 『物語としてのケア:ナラティブ・アプローチの世界へ』 医学書院

# 引用文献

- すずきゆうこ 2006 『べてるの家はいつもぱぴぷぺぽvol.1』 McMedian
- 名月かな 2005 「クスリを飲む体験を語りあってみませんか」 川村実, 佐野卓志, 中内堅, 名月かな 『統合失調症とわたしとクスリ:かしこい病者になるために』 ぶどう社 pp. 9-13.
- 八木剛平 2009 『手記から学ぶ統合失調症:精神医学の原点に還る』 金原出版
- 山本和郎 1986 『コミュニティ心理学:地域臨床の理論と実際』 東京大学出版会
- ヴィゴツキー (柴田義松訳) 2001 『新訳版・思考と言語』 新読書社